

下痢だんご

ひと月あいてしまいましたが、今回も子牛の下痢についてです。

子牛が下痢をしてしまったとき、ミルクや電解質を与える合間に『だんご』を食べさせる方は多いと思います。

様々な薬がありますが、その作用、ご存じでしょうか？

生菌剤：ビオスリー、ボバクチンなど

乳酸菌などが含まれ、腸内環境を整えます。消化吸収不良、抗生物質などにより腸内細菌が変化しているときに効果的。ミルクに混ぜてもOKです。

吸着剤：ネッカリッチなど

腸内の細菌（クリプトスポリジウムのオーシストやカビ毒 etc）や水分、ガスなどを吸着し下痢を改善します。

収斂薬&殺菌薬：パーロン、ベリノールなど

胃や腸の粘膜を被覆・保護し、炎症を抑えます。

消化管内の悪玉菌を殺し、異常発酵を抑える作用がありますが、その反面、善玉菌にも影響があるため、生菌剤との併用には注意が必要です。

これらを水で固めて団子にします。

ややゆるめに作って、上顎に塗るようにすると食べさせやすいですし、子牛と信頼関係を築くと（？）自分から食べてくれる子もいます。

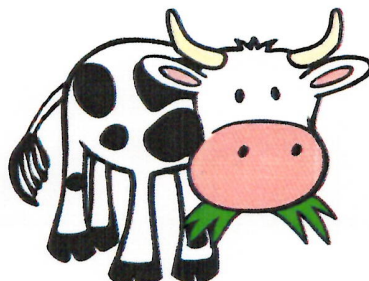
♥何故だんごにして与えるのか？

ミルクに混ぜて与えても効果がなくなってしまうわけではありませんが、ミルクとミルクの合間、胃にミルクが入っていない状態で与えたほうが、薬はより効果を発揮します。

また固形分に行っていることにより、第一胃でも薬が作用することができます。

ちなみに、THMS の下痢だんごはボバクチン、ネッカリッチ、グローアップとVB1 ミックス、セトラキサート塩酸塩（胃粘膜保護薬）を混ぜています。どんなレシピが良いのか、色々試してみてください。

少し手間はかかりますが、脱水やアシドーシスになる前に下痢を治すために！
なんだか元気がないな～という子牛を発見したらまず、下痢だんごを与えるのはいかがでしょうか。



松下裕香